

SERGIO MENDES & BRASIL '77 PRIMAL ROOTS

セルジオ・メンデス&ブラジル'77 プライマル・ルーツ + ①

① 漁師の祈り

PROMISE OF A FISHERMAN
(Dorival Caymmi)

② アフター・サンライズ

AFTER SUNRISE
(S. Neto / O. Neves)

③ 信仰への誓い

CANTO DE UBIRATAN
(Original Arrangement by S. Mendes)

④ イエマンジャ

IEMANJA
(Baden Powell)

⑤ ポンバ・ギラ

POMBA GIRA
(Original Arrangement by S. Mendes)

⑥ サークル・ゲーム

THE CIRCLE GAME
(Edu Lobo / Ruy Guerra)

⑦ 漁師の祈り

PROMISE OF A FISHERMAN
(Dorival Caymmi)
Produced by Sergio Mendes for
Sergio Mendes Productions

⑧ ザ・クラブ (ボーナス・トラック)

THE CRAB
(Joao Donato)

11-71 © 1972 A&M Records

*今リリースは、あくまでもオリジナルのジャケット・デザインを尊重して制作しております。商品記載後、LP発表当時のままで再現している点についてはご了承下さい。

ユニバーサル音楽情報掲載!!
http://www.universal-music.co.jp/uc-pop/

<取り扱い上のご注意>●ディスクは両面共、指紋、汚れ、キズ等を付けないように取り扱って下さい。●ディスクが汚れたときは、メガネ拭きのような柔らかい布で内面から外面に向かって放射状に終らぬまで取り下して下さい。●レーザーや音源等は使用しないで下さい。●ディスクの収納時、絵筆、ボールペン、油性ペン等で文字や絵を画いたり、シール等を貼付しないで下さい。●ひび割れや変形、又は接点部等で傷ついたディスクは、危険ですから絶対に使用しないで下さい。●直射日光の当たる場所や、高温・多湿の場所には保管しないで下さい。●ディスクの収納後、元のケースに入れて保管して下さい。●プラスチックケースの上に重いものを置いたり、落としたりすると、ケースが破損し、ケガをすることがあります。

1960年代後半、ブラジル'66の世界的な成功で一流スターの仲間入りを果たし、ブラジル人ミュージシャンとして最も有名な人物となったセルジオ・メンデス。ブラジル'66がリリースするナンバーは常にビルボードの上位にランキングされ、ラジオやテレビ、コンサートやジャズ・フェスティバルの出演等、世界を股にかけ精力的に活動していた。

しかしながら、セルジオ・メンデスの録音作品はどれもブラジル国内では思うようにヒットしなかったという。ブラジルを離れ活動しているうちにブラジル人の心情との間にズレが生じてきてしまったようだ。

セルジオが合衆国で快進撃を続ける最中、折しもブラジルは軍事政権に突入、国内のムードが一転して暗い空気に包まれてしまった。カエターノ・ヴェローゾやジルベルト・ジルといった新しい世代のミュージシャンは音楽を通して時代と戦っていた。合衆国で「我聞せず」という立場を取っていると勘違いされてしまったセルジオは、ブラジルの音楽評論家に「ブラジルを裏切った売国奴」と言われたことさえあったそうだ。

この作品は、そんな状況に置かれていたセルジオが、祖国ブラジルから遠く離れてしまった自分を改めて見つめ直し、ブラジル本国への想いを表現した異色作である。

ここに収められた楽曲はこれまでの作品の大半を占めていた「欧米のポップスのヒット曲のカヴァー」といった類は一切無い。ブラジル北東部の民謡や衆人崇敬のカンドンブレで使われる音楽など、ブラジル音楽の中でも最も土着的なアフリカ系の音楽、すなわちブラジル音楽の源流ともいえる分野にスポットを当てている。

興味深いことにセルジオは約10年おきに自身を見つめ直すような作品をリリースしている。ブラジル音楽の原点に迫ってみた本作（'72年）、ジャヴァンやドリ・カイミ、トニーニョ・オルタ等の才能あるブラジル人の若手アーティスト達と一緒にレコーディングした「ホリゾンチ・アベルト」（'80年）、バイアアの風雲児、カルリニョス・ブラウンをフューチャーし、サンバヘギに挑んだ「ブラジレイロ」（'83年）等、ブラジル'66路線のサウンドが好きなおファンがずんなりと聴けるとは言い難い、より本物志向のブラジル音楽に挑戦している。

この作品はセールス的に成功したとは言えないだろうが、セルジオにとっては自己のアイデンティティを再認識すると共に、欧米のリリスナーに向けて本来のブラジル音楽が持つ幅広さや奥深さをフィルターを過ぎず伝え、更には生まれ育った母国ブラジルに対して作品を通してリスペクトしてみせたのだ。そして彼のような思いは心の中でずっと継続され、'83年の「ブラジレイロ」でグラミー賞を受賞した事でブラジルへの恋返しを果たしたのだった。

この作品は1972年、カルフォルニアにあるセルジオ所有の専用スタジオで録音された。レコーディング参加メンバーは以下の通り。

セルジオ・メンデス (Piano&Vocal)
セバスチャン・ネト (Bass)
クラウヂョ・スロン (Drums)
オスカル・カストロ・ネヴェス (Guitar)
ルベン・パッサーニ (Timbales&Percussion)
ラウヂェール・ソアレス・ヂ・オリヴェイラ (Conga,Percussion&Vocal)
グラシーニャ・レボラーセ (Vocal)
ジェリ・スティーヴンス (Vocal)

尚、ゲストとしてトム・スコット (Flute)、アイルト・モレイラ (Percussion) クレア・フィッシャー (Organ) 等も参加している。この作品を最後にセルジオは長年所属していたA&Mレーベルを離れた。

当時発売された日本国内盤LPに当時のセルジオの信条が記載されているので紹介しておこう。

「私が思うに音楽というものには国境のない芸術であり、私たちの作品はそのことをもっと忠実に反映して行くだろう。」

曲目解説

(1) 漁師の祈り (Dorival Caymmi)

オープニングはバイアアが生んだ偉大な作曲家、ドリヴァル・カイミのナンバー。日本では今一步認知度が低いドリヴァルだが、彼は海と潮の響りがする色彩豊かな数多くのスタンダード曲を生み出した。あらゆるブラジル人ミュージシャンから尊敬され、誰しも一度は彼の作品を演奏している。

この曲は漁師がイエマンジャーに無事であるよう祈りを捧げるといった内容の歌。ここではセルジオはオルガンを演奏し、更にビリンバウとパーカッションを効果的に使用し神秘的な雰囲気を感じ出している。

(2) アフター・サンライズ (S.Neto,O.Neves)

セバスチャン・ネトとオスカル・カストロ・ネヴェスの共作。広大な大西洋から太陽が昇っていく様子を女性コーラス、ギター、そしてビリンバウをはじめとするブラジリアン・パーカッション群で見事に表現している

(3) 信仰への誓い

(Original Arrangement by S.Mendes)

この曲はブラジル北東部に伝わるトラディショナルな民謡をセルジオがまとめたもので、ブラジリアン・パーカッション群とギターの伴奏にコーラスが乗る。土着的でアフリカテイヴな感が強く、以前のセルジオ・メンデスのサウンドしか知らなかった方には新たな体験となるだろう。

バーデン・パウエルが書く楽曲はボサノヴァというよりアフロ・サンバといったほうがびたりくるのだが、この曲はまさにそのスタイル。タイトルであり1曲目の歌詞にも登場するイエマンジャーは、カンドンブレ（アフリカが発祥のブラジル黒人系宗教）の精霊のひとりで、海の女神の名前である。一昨年公開されたブラジル人美女が活躍する映画「ウーマン・オン・トップ」の前半にイエマンジャーへの祈祷のシーンが出てくる。ビデオ化もされているので興味がある方は是非一度見て頂きたい。

(5) ポンバ・ギラ

(Original Arrangement by S.Mendes)

この曲もセルジオが取り上げた伝承曲で、ブラジル音楽の研究者として有名なマルコス・ペレイラが現地でテレコに録音したテイクといたら多くの方が信じしてしまうような本格的なカンドンブレである。アフリカ音楽の名残であるコール&レスポンスが特徴で、演奏しているとトランス状態に陥るといふ。

(6) サークル・ゲーム (Edu Lobo, Ruy Guerra)

オリジナルLPでB面のほとんどを占めていた18分を越す大作。全編を通してビリンバウとオルガンに包まれ壮大な組曲のようにも感じる。印象的なフルートを吹くのはゲスト参加のトム・スコット。セルジオのピアノ・ソロやオスカルのヴィオラもここでは神秘的なフレーズを奏でている。当時流行していたフリー・ジャズのエッセンスを取り入れたかったのかも知れない。

(7) 漁師の祈り (Dorival Caymmi)

アルバムを締めくくるのはオープニング曲のリプライズ。再びアルバムの最初から聴きたい気持ちにさせられる。

(8) ザ・クラブ

ジョアン・ドナートの作によるこの曲は当時シングル盤のみ収録された。ジョアンはボサリオのゲストとして1970年に来日、セルジオと共に万博のステージに出演した。

2002年6月28日 記

Willie Whopper (藤本賢一)
http://member.nifty.ne.jp/WILLIE/

Special thanks to : Masato Shimada